

都会派銀座が発信する、銀座流街おこし

今後の銀座のキーワード ハチミツと盆踊りと柳

事の始まりは2006年の春。耳に飛び込んできたのは銀座でハチミツを採取するというニュースだった。一大繁華街・銀座の各所でおこる地域に根ざした「街おこし」活動とはいかに？

取材・文：佐藤さゆり 撮影：田中まこと



ハチミツ採取の発起人は、銀座で働く人々の世話人の一人、田中淳夫さん。

やマロニエ、浜離宮の菜の花、皇居周辺のユリの木など、半径3〜4kmを飛び回るミツバチを飼い、活用するというもの。ミツバチは農薬に敏感な環境指標動物。これにより、銀座周辺の緑は意外にも豊かであることが証明された。さらに、ミツバチのお陰で、サクランボやトチの実がなるとい嬉しい収穫も。花の種類によって、香り、コク、甘さに変化する銀座産ハチミツを「銀座で加工し、銀座で



新曲の『銀座ときめき音頭』は4つの踊りを組み合わせたもの。盆踊り大会では大盛況だった。

消費する」という計画に、続々と銀座の店も賛同。『アンリ・シャルパンティエ銀座本店』はマドレーヌを、三笠会館のバー『5517』はカクテルを作るなど、各店が初夏限定で販売したところ大好評。田舎の産直さながら、地産地消が実現してしまっただけ。プロジェクトは6月で一旦終了したものの、クリスマスイブには4丁目の銀座教会で蜜蝋から手作りしたキャンドルを灯す予定だ。『銀座とミツバチ』をテーマにしたオペラや絵本の企画も進行中。『銀座とミツバチ』の火は今も燃えている。

銀座の動きはこれだけじゃない。ある夏の夜、ビルの谷間で催された盆踊り大会には、どこに生息していたのか、住民たちが大集合。銀座の歌が流れれば、興奮絶頂。そんな歌のひとつを作詞した

のが、かの資生堂に勤めていた有田英世氏。銀座の街の活性化に携わった御仁は、縁あって『銀座ときめき音頭』を作詞。その折、老舗菓子舗・銀座風月堂の久岡芳子さんたちが「踊りたい」とリクエスト。今年完成の音頭に通行人までもが大フィーバーできるのは、銀座の老舗たちが縁の下の力持ちとなっているからだ。

銀座の歌といえば、明治生まれの柳並

木。独特な風情を醸して人々に愛されていたが、震災に被災、道路拡張と、何度も街から消えてしまった経緯がある。ところが、銀座で洋品店を営んでいた故・

勝又康雄さんと、仲良しの故・椎葉二二さんが昭和60年に銀座の柳の老木を見つけ、挿し木して二世柳を増植。御門通りや8丁目、泰明小学校前などに植えていった。お陰で柳は今や中央区の木。全国にも分植された。

ハチミツ、盆踊り、

そして柳。思いつきの

ような活動に、どんな人の輪が広がって、

大きなうねりになっていくのが面白いところ。一見敷居が高そうな街なのに、意

外にも昔ながらの人情と、人付き合いがこの銀座を支えているのだ。

一度は消えかけた銀座生まれの柳。現在、二世柳が銀座の街を彩る。

